

平成22年1月

前立腺癌永久挿入密封小線源治療開始後、ガイドラインに定める  
施設基準のうち日本放射線腫瘍学会が定める認定医または  
日本医学放射線学会が認定する専門医（治療：二次試験合格者）の  
資格をもつ放射線治療医が欠員になった場合の処置について

一般社団法人 日本放射線腫瘍学会  
社団法人 日本泌尿器科学会  
社団法人 日本医学放射線学会  
社団法人 日本アイソトープ協会  
医学・薬学部会 放射線治療専門委員会  
前立腺癌永久挿入治療推進  
ワーキンググループ

前立腺癌永久挿入密封小線源治療（以下 シード療法）が標準治療として定着している施設においてガイドラインに定められた資格を持つ放射線治療医が欠員になった場合に、医療の質、放射線安全取扱いに関する患者指導、経過観察、または早期死亡時の対応などの継続性の担保のために以下に示す条件を付けて施設基準の例外規定を設ける。

#### 施設基準例外規定

- 1、 シード療法を新規に開始する施設では以下の例外規定は適応されない。
- 2、 この例外規定の適用上限は、施設基準逸脱から**3年**までとする。
- 3、 施設は資格を持つ放射線治療医の充足に努力するか、または本治療にあたる放射線治療医（以下 甲）は定められた資格を取得するべく努力しなければならない。  
この間は定められた資格を持つ非常勤医師の術中立ち会いが望ましい。
- 4、 当該施設での再開の前に甲はシード治療症例数が 300 例以上の実績を持ち、関係学会で構成された前立腺癌永久挿入治療推進ワーキンググループ（以下 ワーキンググループ）が指定した施設で**一定の研修**を受けカリキュラム内容を満たした旨の**証明書**（書式自由）を取得しなければならない。  
その研修カリキュラムは別紙に示す。
- 5、 甲は直近に開催される「ヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取り扱い講習会」に出席して、**出席証明書**を取得しなければならない。
- 6、 甲は技術取得または知見向上のためにシード療法技術講習会、シード療法研究会に出席することが望ましい。
- 7、 以上の証明書等を総合的に勘案してワーキンググループでは**ガイドラインの施設基準を満たすものであるかを判断する**。

以下 別紙

## 別紙

### 研修カリキュラム内容

- 前立腺のボリウムスタディー
- 術前・術後の線量計算方法とその評価
- シード療法に用いる機材の構造・動作
- 線源に関する各種帳簿の理解
- 線源の注文・受け入れ・保管の実際
- 余剰線源の取り扱い
- 脱落線源の取り扱い
- 一時管理区域の設定と解除
- 管理区域・一時管理区域の線量測定
- 患者と家族への被曝指導
- 医療スタッフの被曝指導

### 研修の達成目標

- 泌尿器科医と共同でボリウムスタディーができる。
- 泌尿器科医とシード療法の適応について対等に相談ができる。
- 患者、家族からシード治療の同意を得るための説明ができる。
- 一人で線量計画（術前計画または術中計画）ができる。
- 一人で術後線量計算およびその評価ができる。
- 医療スタッフにシード療法における被曝指導ができる。
- 患者、家族に脱落線源取り扱いに関する説明ができる。
- 患者の早期死亡時の対応を説明できる。
- 一時的管理区域の設定・解除および管理を理解している。
- 線源管理（余剰線源・脱落線源の管理）について理解している